

## 二歳と六ヶ月

広島県 少林寺 東堂 峯岡俊徳

法事で、お檀家さんのお宅にお邪魔した時のことです。私がお経の本を配り「四ページの般若心経から、ご一緒に唱えましょう」と言うと、「はい」と小さな男の子からとても元気の良い返事が返ってきました。私は驚いて「僕はいくつ?」と尋ねると、男の子は「二歳と六ヶ月」とはっきり答えました。小さいながらもきはきとしたその答え方に、私は再び感心しました。

法事を終えて、お墓参りです。坊やの隣に座っておられたご婦人が「住職さん。坊やは、お経をちゃんとお唱えしていましたよ。でも、その中味はね。『自転車は危ない。自転車は危ない。自転車は危ない』を、ずーっと繰り返していたんですよ」とニコニコしながら話して下さいました。その場に温かい笑いと和やかな雰囲気がありました。

般若心経と聞いて、すぐさまそれがお経だとわかった二歳と六ヶ月の坊やの「自転車は危ない。自転車は危ない」という即興のお経は、平素からお経をお唱えしている、おじいちゃん、おばあちゃん、そしてご両親の後ろ姿を見て育ってきたからこそ、できたことなのでしょう。

子どもは親が思うようには育ちませんが、育てたように育つと聞きます。親の後ろ姿をお手本として育つ子どもを考え、親は自覚して人生を歩んで行くことが大切なのではないだろうかと、二歳六か月の坊やを通して学ばせて頂きました。

(平成二十七年四月放送)